

## 共同研究における私（馬居）の視座と研究発表の目的は・・・

馬居政幸

- ①教員養成学部における社会科教育担当の職を終えて、教育社会学の世界に戻り、学力(学力調査の正答率)と経済(世帯年収)を格差(差異の数値化と社会的価値の上下を重ねた評定)の概念で一元的にリンクさせて論じる傾向に違和感を持つ
- ②長期休校から始まる自粛期間にオンライン格差という言葉が実態への証左なく語られることで違和感が深まる
- ③教員養成学部で教職専門の社会科教育と教科専門を担当することで形成された視座では
  - i 社会科教育、教員養成、授業づくり、多種多様な子どもたちと保護者・・・との関係のなかで
  - ii 学区制、学級、教科等、授業、その日々の創造と繰り返しの重なりで構成される世界において
  - iii 学力ではなく教科等と個々の教員と子どもたちが構成する授業の現実から問い直す作業
  - iv この三種の全ての要素が相互に関連しあって現実を作り合う (social construction of Reality)
- ④このような視座から小学校 45 分、中学校 50 分の授業の現実を構成する社会的要因を取り出して、教員と子どもたちの間において、一人一人の現実がどのように再構成されるかを開示(理解)するためのモデルを考案することを試みる。
- ⑤オンライン格差が存在する前提は、日々の授業と同質の授業が再現されること。より厳密には、一元的尺度によって計測可能な授業の再現が可能であることが前提とみなされるが・・・そのために以下の問いに答える必要が・・・
  - ・コロナ休校によって露呈した学校教育の画一性の虚構
  - ・差異は再生産されるが、格差とみなすかどうか
  - ・格差は上下、評定、到達度、一元的尺度が可能かつ妥当とされる差異、
  - ・多様性、個性、ダイバーシティ、桜梅桃李・・・などの評価の観点との対比
  - ・リモートワークとエッセンシャルワークとの対比・・・社会的評価の上下とみなすべきか
    - ・6次産業社会≡サプライチェーン
    - ・育児と介護の社会化≡保護者の就労化
    - ・学力調査の結果を格差(序列化)に活用する前提は共有化だが
    - ・ICT教育+GIGAスクール+デジタル機器のリテラシーは個人化重視では

★学力格差と経済格差の結びつきや文化資本の概念の否定ではなく、異なる視座からの考察の必要性を問うことが共同研究の課題

- ・格差の再定義ではなく再定位とした理由。
- ・日本は人口ボーナスを期待できる発展途上国ではなく、人口オーナス期に入った日本社会の現実が強いるシステム転換の要請に研究者もまた対峙しなければならないのでは

★発表はモデルAとモデルCの対比に焦点づけて、以下の観点を重視する視座から

- ・教科書重視に対する子どもの日常を構成するリアルな教材重視、
- ・子ども一人一人の共通の課題と差異の重視を同等におく
- ・評定(一元的序列化)と到達度評価(目標の共有化可能)に加えて、個人内評価(一人ひとりの差異と評価の重視)を同等の位置におく
- ・これらの組み合わせが教員の力量の尺度、教員が教師となる条件に